

한통련 뉴스레터

제62호

発行:在日韓国民主統一連合 (韓統連)

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

정세 情勢

●韓米「核協議グループ(NCG)」協議、「拡大抑止」基調を再確認…米戦略原潜、釜山寄港…朝鮮、NCGに反発…韓米日首脳会談、来月開催



記者会見する金泰孝第1次長(左)とキャンベル調整官(中)

韓米「核協議グループ(NCG)」初会合

韓米両国は7月18日、ソウル・竜山の大統領室庁舎で拡大抑止に関する協議体「核協議グループ(NCG)」の初会合を開いた。

金泰孝(キム・テヒョ) 国家安保室第1次長は会合後に開いた共同記者会見で、韓米同盟が4月の韓米首脳会談で発表されたワシントン宣言を通じて、核をベースにした新しいパラダイムにアップグレードされたとし、「両国の拡大抑止はNCGを通じて韓米が共に協議して決定し、共に行動することができる一体型の拡大抑止体制に進む」と述べた。

会合には金氏のほか、米国家安全保障会議(NSC)のキャンベル・インド太平洋調整官、アバクロンビー国防政策・軍縮管理調整官をはじめとする両国の国防・外交当局者が出席した。

金氏は「米側は北が韓国を核攻撃した場合、即時に圧倒的かつ決定的な対応措置を取るようになる。これは北の政権の終末につながるという決然とした姿勢を示したものだ」と説明した。また「韓米両国は北の核脅威に対する共同対応策を論議し、核戦略企画を具体化していくことにした」とし、「核と通常戦力に対する情報共有を拡大し、いかなる核危機の中でも韓米首脳間の合意がなされるような体系と手続きを用意していくことを確認した」と伝えた。

さらに「韓米両国は、米国の核作戦に対する韓国の非核戦力支援に向けた共同企画と実行策を講じ、そのためにNCGが中心となって核と関連した多様な凶上演習やシミュレーションを調整し履行していくことを確認した」と述べた。

キャンベル氏は「朝鮮半島の平和と安定に対する確固たる意志を持っていることは疑いの余地がない。北朝鮮(※正しくは朝鮮、以下同じ)のいかなる挑発、侵攻も抑止し、このための強力な意志と能力を持っていると確信している」と強調した。紛争時の核兵器使用の可能性に関連しては、可能性についてコメントすることは適切ではないと前置きしたうえで、「万一、北朝鮮が核を使用することになれば米国の対応は圧倒的なものになるだろう」と述べた。

朝鮮、NCGを批判

朝鮮の金与正（キム・ヨジョン）朝鮮労働党副部長は17日、12日に新型大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星18」を発射したことについて、「軍事的攻勢の始まりに過ぎない」とする談話を発表した。朝鮮中央通信が17日に報じた。

金与正氏の談話は10日以降4回目で異例の頻度。NCG初会合が開かれることに言及し、「米国が拡大抑止体制を強化し、軍事同盟体制を拡大するほど、われわれを彼らが望む会談のテーブルから遠ざけるだけだ」と述べ、韓米の拡大抑止強化を批判した。

米戦略原潜、釜山に寄港

NCG初会合後、キャンベル氏は共同記者会見で、核兵器を搭載できる米国の戦略原潜（SSBN）「ケンタッキー」が韓国南部の釜山港に寄港していると明らかにした。キャンベル氏は「数十年ぶりに米国の戦略原潜が釜山港に寄港中」として、「NCGが発足し、政府を挙げての包括的な努力が長期間続けられる」と表明。「このような明確な意思と公約を目に見える形で実現させることが重要だ」とSSBNを展開させた背景を説明した。

SSBNは潜水艦発射弾道ミサイル（SLBM）を搭載し、戦略的な任務を遂行する。SSBNが韓国に寄港するのは1981年以来、約42年ぶり。尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領とバイデン米大統領は4月に開いた首脳会談で、戦略原潜を韓国に派遣することで合意していた。

朝鮮、短距離弾道ミサイル2発発射

韓国軍合同参謀本部は北朝鮮が19日午前3時半ごろから同3時46分ごろにかけて平壤の順安付近から朝鮮半島東の東海上に向け、短距離弾道ミサイル2発を発射したと発表した。ミサイルはそれぞれ約550キロを飛行し、東海上に落下したという。

北朝鮮が弾道ミサイルを発射したのはICBM「火星18」を発射した12日以来となる。今回の発射は韓米が18日にNCG初会合を開催し、SSBN「ケンタッ

キー」が釜山に寄港したことに反発したものとみられる。

尹大統領、米戦略原潜を視察

尹大統領は19日、釜山に寄港中のSSBN「ケンタッキー」に乗り込み内部を視察した。

尹大統領は乗艦前に演説し、「韓米はSSBNのような戦略兵器を朝鮮半島周辺に定期的に展開することで、高度化している北朝鮮の核・ミサイル脅威に対し、圧倒的かつ決然とした対応を取っていく」と強調した。

尹大統領は演説で「現存する最も強力な戦略兵器の一つであるケンタッキーを訪問することができて意義深く心強い」と述べた。また友好国の大統領がSSBNに搭乗するのは自身が初めてと承知しているとし、バイデン大統領をはじめとする米側の関係者に謝意を伝えた。尹大統領はまた、米国の戦略兵器が朝鮮半島周辺に定期的に展開されており、これは拡大抑止の実行力を高めようとする韓米両国の意思をよく表していると強調した。

NCG初会合が開かれたことにも触れ、「（会合で）韓米は核兵器と非核兵器を結合した核作戦の共同企画と実行を議論し、朝鮮半島周辺における米国の戦略兵器配備の可視性を高めていくことを確認した」と紹介した。また「北が核による挑発を夢にも思えないようにし、もし北が挑発すれば政権の終末につながることを明確に警告した」と述べた。ラカメラ韓米連合軍司令官（在韓米軍司令官兼務）は同艦について、米国が韓国に提供する拡大抑止の重要な構成要素と紹介した。

韓米日首脳会談、来月開催

尹大統領とバイデン大統領、岸田文雄首相は8月18日に米ワシントン郊外の大統領山荘キャンプデービッドで会談する。韓国大統領室が20日発表した。

韓米日軍事同盟化に反対

NCG初会合では、韓米間の拡大抑止は「核協議グループ通じて協議・決定・行動

する体制」で展開することにしたが、これは既存の拡大抑止の基調を再確認したものに過ぎない。

米国政府は核兵器の統制権については、たとえ同盟国であっても移譲したりすることは決してない。NATOの核共有の場合も核兵器使用の最終決定権は米国にある。

一方で、米国政府は朝鮮の核・ミサイル体制の高度化に至急対抗しなければならない状況にある。また、尹大統領の前のめり発言が示すように、韓国政府は核抑止体制のさらなる充実を米国政府に望んでいる。結局、米国政府は戦略原潜や戦略爆撃機といった戦略資産を朝鮮半島に切れ目なく頻繁に配置することで、「実質的な核抑止体

制」が構築されたと誇示し、これらの必要性に応じているようだ。

当然、朝鮮は韓米の核抑止体制による戦略資産の投入に強く反発し、朝鮮半島の戦争の危機はおさまるところか、核戦争次元へと高まる危険性をはらんでいる。

韓米日首脳会談では3カ国の軍事協力強化を確認する中で、韓米日間での北ミサイル情報の即時共有・即時対応と韓米日間の核抑止体制構築が論議される可能性が高い。

<韓米日3カ国の軍事協力の強化＝韓米日軍事同盟化⇒韓米日軍事同盟構築>に断固として反対しなければならない。

활동보고 活動報告

●韓国野党議員ら訪日…首相官邸前で「福島汚染水を海洋投棄するな！」抗議行動



汚染水放流に抗議の声を上げる尹美香議員（右から5人目）と韓統連、東京民主実践連帯のメンバーたち

東京電力福島第1原発の放射能汚染水海洋投棄に反対する韓国の国会議員らが7月10日、首相官邸前で日本の市民団体などと集会を開き、海洋放出計画の撤回を促した。

野党「共に民主党」と尹美香（ユン・ミヒャン）議員を含む無所属の国会議員計1

1人からなる「福島放射能汚染水海洋投棄阻止国会議員団」がこの日から3日間の日程で訪日した。

同日正午ごろから始まった集会で、共に民主党の朱哲鉉（チュ・チョルヒョン）議員は汚染水海洋投棄について「世界の海を汚染する反世界的かつ反人倫的な行為」とし、「世界の人々が汚染水の投棄が海にとって深刻な脅威になるということに同意している」と主張した。

参加した市民団体「平和フォーラム」の藤本泰成共同代表は、汚染水の海洋投棄が最も低コストで安易な方法だと批判し、環境と生命を守るため韓国市民と共に闘うと訴えた。

12日には在日同胞、日本市民ら約100人とともに東京電力本社前から経済産業省を経て首相官邸前まで徒步行進を展開しながら、抗議の声をあげた。徒步行進には韓統連、韓青、東京民主実践連帯のメンバーも参加した。

●関東大震災100年 朝鮮人虐殺記録映画「払い下げられた朝鮮人」上映会



映画について解説する呉充功監督

100年前の1923年9月、関東大震災直後に千葉県で起きた朝鮮人虐殺がテーマのドキュメンタリー映画「払い下げられた朝鮮人」（1986年）の上映会が7月13日、衆院第1議員会館で開かれ、約300人が参加した。主催は「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年 犠牲者追悼大会実行委員会」。

上映後に講演した呉充功（オ・チュンゴン）監督は、千葉県習志野市の陸軍高津支鮮人（中国人・朝鮮人）収容所戒厳司令部に「保護収容」された朝鮮人が、自警団に払い下げられ虐殺された事実をあげ「軍と警察と民間の間で人の命がリレーされた。

（日本の人たちや政府には）犠牲者の人生を認め、追悼を続けて記録をさらに掘り起こし、歴史の事実から逃げないでほしい」と強調した。

関東大震災における朝鮮人・中国人の虐殺に関連し、杉尾秀哉参院議員（立憲民主党）、福島みずほ参院議員（社民党党首）が100年ぶりとなる国会質問を通じ日本政府の責任を追求する様子が上映され、責任回避に汲々とする日本政府の姿勢が改めて明らかになった。

福島議員と吉良よし子参院議員（日本共産党）があいさつした。

●韓統連、韓青がDMZ国際平和大行進に参加… 分断の傷跡を実感



ヒョスン・ミソン平和公園で説明を受ける行進団

7月19日から22日にかけて、第3回DMZ（非武装地帯）国際平和大行進（以下、平和大行進）に韓統連の崔誠一（チェ・ソンイル）副事務長と韓青中央の韓成祐（ハン・ソンウ）委員長が参加した。平和行進団は7月13日に韓国の東端にある高城（コソン）から出発し、西端の江華島（カンファド）まで10泊11日の行進を行った。

崔副事務長と韓委員長は19日午後在京義道の漣川（ヨンチョン）郡で合流し、そこから2泊3日の行進日程に参加した。20日は東豆川（トンドウチョン）市を訪れ米軍犯罪に関して現地活動家が講師を務めフィールドワークを行った後、議政府（ウィジョンブ）市へ移動し米軍装甲車女子中学生れき殺事件（2002年）を追悼・記憶するヒョスン・ミソン平和公園を訪問した。21日は対岸1.4kmの距離に朝鮮が見えるエギ峰展望台を訪問した後、江華島とキョドン島をまたがるキョドン大橋とキョドン島を行進した。

21日夜に宿舎で行われた解団式では、全日程参加者に配られるメダルが特別に在日同胞参加者に配られた。韓委員長があいさつで「日本に戻った後に、在日同胞青年に平和大行進の中で感じた祖国の分断と、分断を克服した先の希望について語りたい」と述べた。

●韓統連が「停戦70年 朝鮮半島平和行動」に参加…朝鮮半島の平和をアピール



平和大会ステージ上でアピールする訪問団

韓統連は7月21日から23日にかけて、「停戦70年平和行動 韓統連母国訪問団」を結成し、ウリ民主連合、日韓平和連帯、日韓民衆ネットワークとともに7月22日に韓国・ソウルで開催された「停戦70年 朝鮮半島平和行動」に参加した。

21日にはソウル市庁前に設置された梨泰院（イテウォン）惨事犠牲者の焼香所を訪問。犠牲者を偲び焼香し、遺族と面談した。梨泰院惨事遺家族協議会のイ・ジョンミン代表は「今回の惨事は韓国だけではなく、世界のどこであれ起こってはいけないこと。犠牲者に思いをはせ、日本でも惨事の教訓を伝えてほしい」と語った。ソウル市庁近隣で団結の夕べを開催。韓国進歩連帯など、韓国の活動家らとともに訪問団成功への意気込みを共有した。

22日午前には西大門（ソデムン）刑務所歴史資料館を訪問。在日韓国人良心囚のコーナーでは、ウリ民主連合の李哲（イチョル）代表が自らの体験もまじえて詳細に当時の状況を解説した。

午後2時から世宗（セジョン）文化会館前で「韓日市民共同記者会見」を開催。会見では韓米日軍事同盟の強化に警鐘を鳴らすとともに、福島原発汚染水放流について「国際海洋法に違反する犯罪行為だ」とし、放流中止を要求した。

事前行事である「草の根市民 平和大会」後、市庁前から光化門（クァンファムン）にかけ「停戦70年 朝鮮半島平和行動」が進行を展開。韓統連訪問団は横断幕を掲げ、「戦争反対」「韓米日軍事演習中止」「平和協定締結」などのスローガン

を叫びながら行進を貫徹した。光化門広場で「停戦70年 朝鮮半島平和大会」を開催。平和行動の共同代表4名が主催者あいさつ。「米国のインド太平洋政策に偏重する中、韓米日軍事協力は、事実上の軍事同盟になりつつある。いまこそ平和のための市民の力が必要だ。ともに行動しよう」と訴えた。進歩党のユン・フィスク代表があいさつ。「尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領は力による平和を強調するが、実際のところは戦争危機を高めており、自らの政策に反対するものを脅迫、弾圧している」と批判。「今後も朝鮮半島の終戦と平和のために努力していく」と語った。

韓統連訪問団は日本からの参加団体の一員として紹介され、会場から歓迎の声援を受けた。平和フォーラムの藤本泰成共同代表があいさつ。「今年は関東大震災朝鮮人虐殺から100年を迎える。私たちは過去の日本の侵略の歴史に真しに向き合い、アジアの人たちと新しい連帯をつくっていきたい。平和憲法を守りながら、ともにアジアの平和に向けて努力していく」と語った。

23日にはDMZ平和紀行に参加。臨津閣に設置された平和の少女像前で、作者のキム・ソギョン、キム・ウンソン夫妻から解説を受けた。少女像について「日本を糾弾することが目的ではない。元日本軍『慰安婦』の心情を表現したものであり、平和への気持ちを表したものだ」と語り、日本政府に対して戦争犯罪への反省と謝罪を要求した。

ソウル市内で歓送会を開催。韓国進歩連帯のハン・チュンモク代表は「韓国の民衆、進歩陣営は尹錫悦政権退陣に向け、尹錫悦退陣運動本部を結成した。8月12日から尹錫悦退陣国民大会を毎月開催し、11月11日には数十万人が結集する国民総決起を成功させるために、最善をつくす」「朝鮮半島の平和実現にむけて、韓日の平和連帯は切実だ。この場所が、朝鮮半島平和実現への最初の一步となるだろう。尹錫悦を退陣させ、平和を実現する日まで、と

もに闘っていこう」と語り、参加者全体で朝鮮半島の平和と統一に向けての思いを共有した。

宋世一（ソン・セイル）委員長は訪問事業を振り返り「停戦70年を迎え、韓統連は韓国の平和行動と連帯し日本でもキャンペーンを展開し、今回の平和行動に母国訪問団として参加することで、朝鮮半島の平

和を参加者らとともに大々的に訴えることができた。また、一連の行動を通じて、ウリ民主連合や日本の平和勢力との連帯関係を強化し、あわせて組織の位相を高めることができた。非常に大きな成果を勝ち取った」と評価した。

※平和大会決議文は後掲

停戦70年 韓統連母国訪問団 参加記

韓統連兵庫本部 李俊熙（イ・チュニ）事務局次長



「今日の運動を第一波として、百派、万派に拡大していくことで、必ず尹錫悦（ユン・ソンニョル）を退陣させる。そして退陣させたその時には、その祝賀宴に必ず招待する」。公式行事を終え、国内団体と訪韓団との交流会の最後に、韓国側のトップである韓忠穆（ハン・チュンモク）常任代表が約束した言葉です。この熱い決意に満ちた約束が、嬉しくもあり、寂しくもありました。

この日7月22日は、停戦70年を契機に朝鮮半島を平和へと導いていくとの思いが、そして尹錫悦を退陣させようという思いが、ソウルのあちこちにあふれていました。大会前の時間にわたしたちが日本大使館前にある「平和の少女像」へ向かうと、警察がわらわらと集まり怒声をあげてきました。写真を撮るだけだと言うわたしたちの言葉を信じない警官らは、集会許可が無いことを理由にわたしたちを解散させようとし、怒号が飛び交い一触即発の事態となりました。街の雰囲気にもまれ、彼らも緊張しているようです。

またわたしたち訪問団が集会場に移動する途中では、平和と統一を訴えてデモをする大きな集団がありました。よく見るとデモ隊の中には過去に出会った国内活動家の姿がみえ、道端で固い握手を交わすことができました。そしてまた他の場所でも国内で親しく付き合う活動家たちが、わたしたちとは別の形で尹錫悦退陣集会を開催していたようです。様々な団体がいろいろな形で、声を上げていました。

この日に、日本から韓統連の代表としてソウルの運動に参加できたことは、大きな意義がありました。自由往来権を勝ち取った以上、社会変革運動の現場には常にわたしたちが参加し、その変革の一員になる必要があります。今回の訪韓で出会った活動家の一人は「自分は毎週、退陣闘争に参加している。来年には必ず尹錫悦を退陣させる。」と力強く語っていました。様々な団体と場所で闘う彼らは、その力を糾合することで百派・万派を形成し、この運動に勝利するでしょう。この運動を彼らだけに任せてはいけなと感じました。

祖国統一運動、韓国社会の変革運動と在日同胞の未来はつながっています。わたしは尹錫悦が退陣した後の祝賀宴に参加するのではなく、退陣運動の隊列の一員として日本の地からこの運動に主体的に参加していきたいと感じました。そのために変革運動の主体者として、世界と祖国、そして在日情勢を分析し、方針を設定し、組織を拡大させ、運動を実践していきたいと思えます。もうちょっとウリマルも勉強しながら…。

写真で見る母国訪問団



DMZ 平和行進



梨泰院惨事犠牲者焼香所



団結の夕べ



西大門歴史博物館



韓日共同記者会見



平和大行進



DMZ 平和紀行



歓送会

「停戦70年 朝鮮半島平和大会—戦争の危機をこえ敵対をやめいま平和へ！」決議文

戦争の危機をこえ敵対をやめいま平和へ、停戦協定締結70周年を前にわたしたちは今日ここに集まった。

全国から世界各所からこの場に集まり平和のあいさつを交わし手を握り合った。

わたしたちはこの地、朝鮮半島とその周辺で日ごとに濃くなる戦争の黒雲、きのこ雲の影をとりはらうために行進した。

朝鮮半島からアジアと太平洋、そして全世界に新たな平和の歴史をつくろうと声の限りともに叫んだ。

1953年7月27日、3年間で300万人の犠牲を生んだ残酷な戦闘の砲声はやんだが、平和は来なかった。「平和的解決が最終的に達成されるまで、韓国における敵視行為と一切の武装行為の完全な停止を保障」しようとした停戦協定の目的さえも履行されなかった。

いつ戦争が再開するかもしれない恐怖と不安、終わらない敵視と軍事的緊張が朝鮮半島の住民の生命を締め付けてきた。

70年あれば充分ではないか。わたしたちはこの敵視と戦争を終えることを決心した。

敵視と不信は終わりを知らない軍備競争と軍事的威嚇の悪循環を引き起こしてきた。わたしたちは悪循環の源を断つ。戦争を終えて平和協定を締結しろ。

わたしたちはこの地、朝鮮半島を再び残酷な戦場にすることを容認しない。戦争は問題の解決手段にはなりえない。

だれであれわたしたちの意思を無視して、戦争を起こしたり戦争をいとわないと宣言することはできない。わたしたちは戦争に反対する。

わたしたちは朝鮮半島を核兵器も、核の脅威もないよりどころとしていく。朝鮮半島と全世界から核兵器は消えなければならない。

朝鮮戦争の当事国とすべての関連国は核兵器とほかのどのような手段でも互いを威嚇しないこと、全世界から核兵器の脅威を除去するために協力することを約束しなければならない。

協議が止まった間、朝鮮半島の平和体制構築と核問題解決のための建設的論議は消えてしまった。韓国と米国は核を基盤にした新たな同盟を、北朝鮮（※正しくは朝鮮）は核武力の高度化を主張する。周辺国まで加勢するので核軍備競争が加速化している。しかし、わたしたちは平和的解決を放棄しなかった。協議は終わらなかった。再開されなければならない。

敵視を中止し信頼を回復し新たな関係へと転換することが、朝鮮半島の平和体制構築と非核化のかぎだ。南、北、米の首脳らが2018年に合意したことも新たな関係への転換だ。わたしたちはこの合意の履行を要求する。

すべての当事国はこの合意を実践するための相互措置に関する誠意ある協議を再開しなければならない。

制裁と圧迫は解決法ではない。この方法で状況が改善されなかった証拠は探し求めることができる。むしろ一方的な制裁と軍事的圧迫は新たな次元の軍事的危機へとつながるだけだ。今日わたしたちが目撃している朝鮮半島の核危機は、まさにその証拠であり、すべての住民を苦痛に陥れる制裁は緩和されて当然だ。

武力示威は中止されなければならない。韓米合同軍事演習は攻撃的な戦争演習だ。圧倒的な核抑止力と先制攻撃能力を誇示しながら、相手に銃を下すことと非核化を要求するのが抑止だ。閉じた対話の扉を開き協議を再開するためにも韓米軍事演習を止めなければならない。

北の核脅威に対応するとの口実で韓米日とともに戦争を準備し演習し、ほかの周辺国と対決する軍事連合を形成している。わたしたちは戦争状態の不安定な朝鮮半島を地域紛争のど真ん中へと追い込むことに断固として反対する。特に日本との軍事協力のために過去の戦争犯罪に目を閉じ、放射能汚染水の海洋投棄を容認し、アジアの平和の軸である日本の平和憲法を無力化することに同調することは容認できない。

わたしたちは平和に共存し協力する朝鮮半島とアジアをともにつくっていく。

制裁緩和を主張し、韓米合同軍事演習の中止を主張し、協議の再開を主張することを反国家勢力だと決めつける脅迫をすぐさま中止しろ。戦争の修辞に同意しなければ反国民だとらく印を押そうとする暴力を止めろ。この地で生きていくわたしたちが主人だ。憂慮の声を抑え込み排除しようとする国家暴力と嫌悪の扇動を中止しろ。

平和を主張するのが困難な瞬間が平和が最も切実な瞬間であることをわたしたちは知っている。戦争の危機が日常化したいまこそ、平和のための対話と協議が最も必要な時間であり、平和を要求する市民が行動に乗り出さなければならないときであることを私たちは知っている。今すぐ戦争の危機をこえ敵対をやめて平和の道へと進み出そう。

敵視をやめ南北・朝米関係を改善しよう！

朝鮮戦争を終え平和協定を締結しよう！

核兵器も核脅威もない朝鮮半島と世界をつくろう！

制裁と軍事脅威ではなく対話と協力で葛藤を解決しよう！

韓米日軍事協力を中止し平和で共存する朝鮮半島とアジアをつくろう！

軍備競争と破壊の悪循環を断ち人と地球を生かすことに力を集めよう！

2023年7月22日

停戦70年 朝鮮半島平和大会 参加者一同

행사예정 行事予定

8月

8・6ヒロシマ平和へのつどい2023

日時: 8月5日(土) 17時~19時30分(16時30分開場) 場所: 広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階研修室ABC 内容: 第1部 問題提起「朝鮮半島の平和実現のために」(韓統連広島本部 尹康彦(ユン・ガンオン)代表委員)など 第2部 記念講演「米中対立を超えて、非覇権・非軍事・連帯の東アジアへ」(講師:白川真澄さん) 主催: 8・6ヒロシマ平和へのつどい2023実行委員会 連絡先: 090-4740-4608

第55回韓青西日本夏期講習会(サマーキャンプ2023)

日時: 8月5日(土)~6日(日) 場所: 香川県高松市内および女木島 内容: 学習企画、海水浴、観光、BBQ、レクリエーションなど 主催: 韓青関西地方協議会 連絡先: 03-4400-5331 (ハン)

第55回韓青東日本夏期講習会(サマーキャンプ2023)

日時: 8月26日(土)~27日(日) 場所: 愛知県名古屋市 内容: 学習企画、民族文化ワークショップ、レクリエーション、BBQなど 主催: 韓青関東・東海地方協議会 連絡先: 03-4400-5331 (ハン)

統一マダン生野プレイベントー朝鮮戦争を完全に終わらせ、平和協定実現に向けて歩もうー朝鮮半島とアジアの平和を考えるつどい

日時: 8月27日(日) 午後1時受付 1時30分開始 場所: クレオ大阪中央 4回セミナーホール 内容: プレゼン(又はビデオ)「朝鮮戦争の真実」、講演(講師:康宗憲(カン・ジョンホン)韓国問題研究所代表 参加費: 800円(障害者、学生、75歳以上は500円) 主催: 第28回統一マダン生野実行委員会 連絡先: 090-3822-5723 (チェ)

「停戦70年 朝鮮半島平和大会」に訪問団の一員として参加しました。大会は雨天にもかかわらず、参加者全員の平和を願う熱気があふれ、大盛況でした。このような国内の闘争を、日本に持ち帰って私たちが伝播していかなくてははいけませんね。(李)